

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス すなめりⅡ		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 17日		2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24人	(回答者数) 24人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 17日		2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 12人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	あたたかい家庭的な雰囲気の中で、ありのままのこどもの姿を受け入れ、ひとりひとりへのきめ細やかな支援を心がけている。	こどもの気持ちに寄り添い、発せられたこどもの言葉をひろい日々の活動の中で記録を取っている。	利用日のこどもの記録ややり取りの内容を連絡システムやお迎え時に対面にて保護者へ伝えていく。
2	将来を見据えた活動内容の工夫やスモールステップの個別課題を用意して療育内容の充実に努めている。	限られたスペースで遊びの工夫やルールを考えて様々な活動を楽しんでいる。こども同士で遊びを発展させていく姿が見られてきている。	ひとりひとりのできることをコツコツと積み上げて「できた」の達成感を共有し自信に繋げて自己肯定感を育んでいく。
3	集団活動の中でこどもが自分の役割を担ったりルールを守って遊んだりすることに取り組んでいる。	会での司会進行役、紙芝居の音読、振り返りでの発表など人前で話す経験を積みコミュニケーション能力を高めている。	やりたい活動を自分たちで話し合い協力しながら行える力を育んでいき自主性を伸ばしていく。

	事業所の弱み(※)と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校がタブレット学習を取り入れている中で、教材などアナログ対応が中心であること。	こどもひとりひとりの興味・関心が多義にわたっていることや変化が速いことへ対応することに限界がある。	即時対応が難しい。個々の得意分野を生かしていき、興味・関心が他児へも広がり共有でき、友だちのことを知る機会に繋げていく。
2	年齢に合った活動スペースの確保が難しいこと。	体幹を鍛えたり、バランス感覚を養うための部分的な動きを組み合わせたりすることで解消している。	活動スペースには物をなるべく置かず、空間を広く使えるようにしていく。
3	地域との交流の場が少ないこと。	ガレージを活用して活動をしたり、通行している人に挨拶したりして交流を持つようになっている。	事業所の行事を地域へ開放していきけるための準備を行っていく(まずは、保護者の方、兄弟姉妹参加型行事の企画から取り掛かる)。